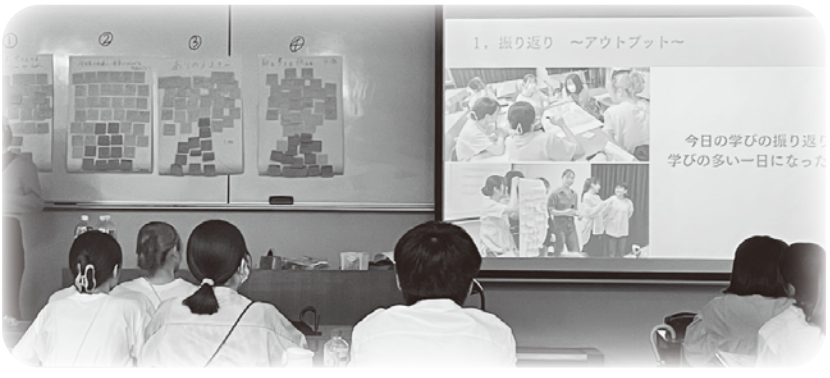
共生

奈良県生協連
2024年7月
NO.133

第35期奈良県生協連通常総会



Peace Now！奈良2024

もくじ

奈良県生協連第35期通常総会…… 1・2
会員生協からの報告…… 3・4
生協の歴史から戦争と平和を学ぶ…… 5・6
生協・行政協議会/市町村訪問…… 7
Peace Now！奈良2024 …… 8
生協組合員理事交流会…… 9
能登半島地震災害ボランティア……10

奈良県生活協同組合連合会機関誌

奈良県生協連 第35期通常総会を開催

2024年 6月29日（土） 奈良ロイヤルホテル

奈良県生協連
森 宏之 会長

6月29日、奈良県生活協同組合連合会　第35期通常総会を開催しました。2023年度事業報告・決算関係書類、2024年度事業計画及び予算案、監事監査規則の一部変更に関して、役員選任および役員報酬議案について、第1号議案から第5号議案の全議案ともに可決・承認され、2024年度事業計画に基づいて活動がスタートしました。

会場の様子

ご来賓19名、理事12名・監事2名、代議員27名（内委任1名・書面議決1名）、オブザーバー43名、事務局を含む総勢102名（実出席100名）が出席・参加し、奈良県生協連の1年間の取り組みや会員生協の活動報告を共有しました。

森宏之奈良県生協連会長は冒頭の挨拶で、「くらしが厳しく生きづらいなか、能登半島地震被災者への支援、温暖化の影響による災害への備え、核兵器廃絶の運動を強め、国際協同組合年とSDGs推進、社会的弱者や若者応援の取り組み、ジェンダー平等を位置づけ、健康増進・福祉の取り組みをコミナスとの連携も課題とし、消費者被害の防止を通じて地域共生社会づくりをすすめてまいりたい」と述べました。

また、ご来賓を代表して佐藤啓参議院議員秘書　亀田　真伍様、奈良県 地域創造部 県民くらし課長 藤本 和巖様、奈良県社会福祉協議会常務理事　石井　裕章様、特定非営利活動法人なら消費者ねっと理事長　北條　正崇様からそれぞれお祝いの言葉をいただきました。

全国から64件の祝電・メッセージをいただきました。被災地に寄り添い続けること、核兵器廃絶への願いを広げること、諸団体との連携を深めること、2025年国際協同組合年にむけ、協同組合の価値を発揮することのメッセージが寄せられました。

佐藤啓参議院議員
亀田 真伍 秘書

奈良県県民くらし課
藤本 和巖 課長

奈良県社会福祉協議会
石井 裕章 常務理事

特定非営利活動法人
なら消費者ねっと
北條 正崇 理事長

ご臨席いただいた来賓の皆様方（順不同）

- 佐藤啓参議院議員 秘書　亀田 真伍様
- 奈良県地域創造部 県民くらし課 課長　藤本 和巖様
- 奈良県地域創造部 県民くらし課 主査　保田 万里様
- 奈良県消費生活センター 副所長　山中 一泰様
- 社会福祉法人奈良県社会福祉協議会 常務理事　石井 裕章様
- 日本生活協同組合連合会 関西地連 事務局　今永 紘子様
- 近畿労働金庫 地域共生推進室長　東中 健悟様
- 特定非営利活動法人なら消費者ねっと 理事長　北條 正崇様
- 日本労働者協同組合連合会センター事業団 関西事業本部奈良エリア　崔　亨珞様

寄せられた祝電メッセージ64件

ありがとうございました。

司会 岡田 昭典 理事

岡田昭典理事の司会進行のもとで、ならコープ代議員の板澤英子さんが議長に選出され議事に入り、議案の提案と各会員生協から活動報告をおこないました。代議員27名中、実出席25名、委任1名、書面議決1名の合計27名の出席で審議・採決が行われ、全議案が賛成多数で可決、承認されました。

最後に末吉英男副会長は閉会挨拶で、「地域共生社会づくりにむけ地域の窓口として、2025年国際協同組合年を機にさらに取り組みを強め協同組合の認知を高めていきたい」と述べました。

議長 板澤 英子さん

末吉 英男 副会長

2024年度 役員体制

会　長（代表理事）	森　宏之	員外	理　事	橋本 健太	奈良工業高等専門学校生活協同組合
副会長	末吉 英男	奈良県労働者共済生活協同組合	理　事	藤本 隼平	奈良女子大学生活協同組合 奈良教育大学生活協同組合
専務理事（代表理事）	奥西 武史	員外	理　事	福西 啓次	市民生活協同組合ならコープ
理　事	岡田 昭典	生活協同組合コープ自然派奈良	理　事	福山 明浩	奈良県医療福祉生活協同組合
理　事	城本　塁	生活クラブ生活協同組合	理　事	吉田 由香	市民生活協同組合ならコープ
理　事	谷垣 晴香	奈良教育大学生活協同組合	監　事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
理　事	鶴谷 将彦	奈良県立大学生活協同組合	監　事	金光 結香	市民生活協同組合ならコープ

承認された議案

第1号議案　2023年度事業報告・決算関係書類承認の件
第2号議案　2024年度事業計画及び予算案決定の件
第3号議案　監事監査規則の一部変更に関する件
第4号議案　役員選任の件
第5号議案　役員報酬決定の件

2024年度の事業計画

① 協同組合理念を学び、協同組合間の交流・連携をはかります。
② 被災地支援と地域防災に取り組みます。
③ 適格消費者団体なら消費者ねっとと連携し、消費者市民社会の形成に寄与します。
④ 被爆者なき時代の核兵器廃絶運動を念頭に、平和の取り組みを推進します。
⑤ 自然・くらし・エネルギーの地域共生をめざして取り組みます。
⑥ 会員と社会的諸課題を学び考える場を設けます。
⑦ 会員同士の活動交流と連帯をすすめます。
⑧ 渉外・広報活動を強め、生協の社会的活動の認知度向上に努めます。
⑨ 持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みを推進します。
⑩ 食の安心・安全、食料自給率の向上をはかります。
⑪ 生協・行政協議会は、奈良県行政との懇談の場として開催します。
⑫ 安心して暮らせる地域共生社会づくりに貢献できるよう取り組みます。

会員生協からの報告

奈良県労働者共済生活協同組合

栗岡 勝也さん

この4年間のコロナのみなし入院共済支払請求は落ち着いてきましたが、今年1月1日能登の地震が発生。4月16日には姫路での雹被害と自然災害による対応が中心でした。災害現場での支援活動や共済金の手配、被災者の生活再建支援に対応しました。自然災害共済には入られてない方がおられるため日ごろの共済推進活動を強化していきたいと思っています。また、交通安全プロジェクトでも活発に活動しています。例えば奈良県での交通安全見守り旗(横断旗)を奈良県交通安全母の会の方に今年は1537本を提供させていただきます。地域社会への貢献を続け、これからも防災と共済の推進を通じて地域の皆さんと協力し、より安全な社会を目指していきたいと考えています。

生活クラブ生活協同組合

夏目 有香さん

生活クラブ生協でも社会を取り巻く課題に対して協同組合の力でどうすれば良い方向に持っていけるかということを日々考えながら活動を行っております。生産と消費のバランスが崩れています。日々の課題に組合員同士が顔の見える関係性を重視し、小さな行動でも積み重なることで未来の子どもたちに持続可能な社会を手渡していけると思っています。2023年度の活動として、4年ぶりにならフェスタを奈良県コンベンションセンターで開催しました。また、環境エネルギー分野では日本政府に対して再生可能エネルギーの普及を求める署名活動も行い555筆集めることができました。福祉分野でもエッコロ助け合い制度を推進し、地域コミュニティの結束を深めています。協力と、2024年度も私たちの活動に共感する組合員を増やしていくことで、持続可能な社会に向けて取り組んでいきたいと思っております。

奈良県立大学生活協同組合

大西 亜弥さん
稲岡 瑞月さん
港 世乃さん
(右から)

私たち学生委員の2023年度の活動目標は「組合員に向き合い共に作り、よりどころのある身近な生協」でした。活動方針については5つの目標を掲げて活動していきました。①「大学との連携を深め、協議を行い、学生に寄り添った企画を行う」は履修相談会企画で目標を達成 ②「学生同士のつながりを深め、活気のあるコミュニティづくりに努める」は、クリスマス抽選会やキッチンカーでの配食企画を通して実現③「学生受験生、保護者に必要な情報を提供しより良い生活を提案する」は、大和路通信の作成と新入生保護者入学準備説明会を開催 ④「組合員のニーズに合った企画を行い、生協のサービスの利用を促進する」は、食堂リニューアルオープン企画と大山牛乳試飲会、また、インスタグラムを用いた自動車免許取得や公務員講座などの情報発信の実施。今後も組合員のより良い大学生活のために活動していきたいと考えています。

奈良女子大学生活協同組合

宅明 風佳さん

「組合員同士がつながり、自分たちの願いやニーズを実現できる大学生協を目指します」の目標は組合員の声を聴いたり、組合員に向けて情報を発信したりといった活動で実現することができました。
次に、「共済の輪を広げ、組合員の健康と安全に関する取り組みを強めます」の目標は共済に関する情報を提供する「共済ボード」を復活させることができました。また、「自転車点検会」と「Beauty Health Lab(食生活相談会)」を年2回開催し、日々の食生活や健康について考える機会の提供をすることができました。

次に、「食品ロスの削減、フェアトレードなど、社会的課題にも取り組みます」の目標はアフリカ・アジアの子どもたちへの給食の寄付になる取り組みをすすめました。Peace Now! 奈良の運営・開催では奈良教育大学、奈良県立大学、奈良県生協連と協力して、実行委員を設置し毎年6月にセミナーを開催しています。広報活動では「奈良女wiki」「ならてくまっぷ」という新入生向け冊子を作成しX、インスタグラムへの投稿など、さまざまな企画の宣伝をうまく行うことができたと思っています。

奈良教育大学生活協同組合

早川 裕生さん

2023年の目標は「積極的な情報発信によって奈良教育大学内での活動内容の周知につとめ、同時に学外との連携を促進することで、より良い大学生活を支える存在になる」でした。活動は広報局、IP局、共済局、店舗購買局の4つに分かれて活動しました。1年間のスケジュールの夏企画では教育大という特性を生かして、地域の子どもたちや附属小学校の児童に向けて夏祭りを開催しました。最後に新学期企画は受験応援、大学生活説明会、茶話会、交流会、履修相談会を行いました。2024年度は「学生の学生による学生のための学生委員会を目指して、主役を学生としたイベントを作り上げるとともに、教育大学ならではの属性を生かして、子どもをはじめとする学外の人にも楽しんでもらえるようなイベントや情報を発信していく」ことを頑張っていきたいと思います。

奈良工業高等専門学校生活協同組合

亀岡 優花さん
高木 健児さん
梅崎 千紘さん
（右から）

奈良高専には約1000人の学生が在籍しており、ほぼ全員が奈良高専生協に加入しています。自転車点検会を年2回、修理士の方に来ていただき無料点検や有料修理をしていただいています。同好会は整理券の配布や点検待ち、点検済みの自転車の受け渡しが主な仕事です。新たな試みとして点検に来られた方にお菓子をプレゼントしました。朝から大雨でしたが、約40人の組合員が点検に来られました。

8月上旬にかき氷企画を行いポスターの準備や校内放送などの宣伝活動、シロップやトッピングの考案、材料の買い出し、当日の運営などを行いました。当日は雨でしたが1時間半ほどで完売しました。4月に実施した新入生歓迎会は新年度の書類提出日が感染症の学級閉鎖と重なり、参加人数は7人と伸び悩みましたが、無事に開催できました。5月には奈良高専生協の通常総会が行われ同好会もお手伝いしました。感染症対策の緩和もあり70人以上の組合員が出席しました。

市民生活協同組合ならコープ

岡 晋代さん
高原 久美子さん（右から）

2023年度はサイバーインシデントからの復興と利用と信頼の回復を最優先に取り組みを進めました。エリア本部制にもチャレンジし、事業間の連携、事業と活動の連携でエリアの実情や課題に向き合いました。

組合員の家計負担軽減にも取り組みました。また、商品やサービスでははなまる運動を進めました。10月から組合員活動再開で学習会や企画が多く開催されました。組合員のつどいでは「商品でつなごう、みんなのコープ」として商品を中心に学び交流することの大切さを実感しました。商品の開発にも積極的に取り組みました。7月にならコープ創立50周年を迎えます。人づくり、商品づくり、地域づくりを進め、協同組合の協同と連帯の力によって地域や組合員の困りごとを解決できるエリア事業運営を進めていきます。来年は2回目の国際協同組合年となります。誰も取り残さない安心してくらせる地域づくりの実現に向けともに連帯を強めていきましょう。

コープ自然派奈良

成田 夏樹さん

コープ自然派の商品の良さを伝え、利用を広げるために生産者学習会を行っています。大和ひみこ米は誕生から15年を迎え組合員さんと田んぼの体験交流や田植え、稲刈り、野菜の収穫など体験の機会を作っています。昨年は無農薬栽培にも取り組み1620キロのお米を収穫することができました。また、人手不足や高齢化によりお困りの農家さんのお手伝い「自然派農業お手伝い隊」を結成、農家さんのサポートになれるように実績を積み重ねています。オーガニック給食の取り組み、うきうき活動室プロジェクト、ぐるぐるマーケット、奈良・町家の芸術祭はならぁと2023に参加し持続可能なテーマとしたサステナブル講座や映画上映会、また組合員さんのポイントを寄付する子ども笑顔基金プロジェクトなどを行いました。奈良県コンベンションセンターでオーガニックマルシェを今年度も3回開催する予定です。組合員さんの意見を取り入れながら、これからも活動を進めていきたいと思っています。

奈良県医療福祉生活協同組合

高良 光江さん

奈良県医療福祉生協では、組合員活動を通して居場所と健康づくりを進めています。

地域委員会、サークル活動、すこやかカフェみみなし、すこやかカフェ六条に加え、7月に発足した「グッヘルマミ」が健康カフェをならコープ真美ヶ丘店で毎月開催しています。

生協強化月間では「つながりづくりは健康づくり」をテーマとし、健康づくり交流会やおしゃべり会を開催しました。

橿原市では初となる「無料低額診療事業」を開始し、２名の方の自己負担金を全額免除することができました。また、「現行の健康保険証を残してください」という署名活動を行い、1035筆の署名が集まりました。

「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」をテーマに学習会開催

齋藤 嘉璋さん

5月29日に元日本生協連常務理事の齋藤 嘉璋（さいとうよしあき）さんをお迎えし「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」をテーマに学習会を開催し73名が参加しました。

昨年6月の奈良県生協連総会において奈良県生協連・瀧川名誉会長から平和の取り組みが重要であると提起され、今年3月の組合員理事交流会では「『平和』活動に取り組んできたわけ」「奈良での生協の『平和』活動について」を学習しました。今回、齋藤 嘉璋さんから日本の生協運動の歴史と戦争と平和についてお話しいただきさらに理解を深める趣旨で開催しました。

齋藤さんは、ご自身が執筆されたブックレット「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」（2016年4月旧版発行。世界の平和をめぐる情勢が近年ますます悪化する中で、2024年5月に改訂新版発行）に沿いながら、生協の歴史の中で戦争と平和をどう考えるかについて話されました。

1879年に、イギリスのロッチデール組合に学んで日本で初めての生協が設立されました。そして、明治から大正、昭和の時々の時代背景（特に戦争前後に）の中で翻弄された生協とそれに携わった人々についてなど、多岐にわたり、大変内容が濃く、参加者は熱心に聞き入っていました。

1941年に太平洋戦争が開戦となり、戦時下で生協は「治安警察法」による解散や事業の継続困難など壊滅的な打撃を受けました。

1945年、終戦とともに、生協の再建が始まりました。1948年に生協法が制定され、1951年に生協法に基づく生協の連合会として日本生活協同組合連合会（日本生協連）が設立されます。日本生協連は設立宣言で、「日本における生協運動の歴史は実にいばらの道であった」と謳い、「平和とより良き生活こそ生活協同組合の理想であり」「平和とより良き生活のために」をスローガンとして決めました。その後全国の生協運動のスローガンとして長らく使われてきました。

1945年8月に広島と長崎に原子爆弾が投下されましたが、その原爆と被爆の実相は米軍占領下で長らく隠蔽されてきました。1954年、第5福竜丸がビキニ環礁でアメリカの水爆実験で被爆しました。アメリカの水爆実験をやめさせようと署名運動が杉並区の生協組合員等を中心に展開されます。

原水爆禁止運動は分裂等がありましたが、1977年に統一されてから生協の平和活動が組合員参加で大きな取り組みになっていきます。その後生協では、被爆者援護法実現のための署名活動や世界法廷運動、国連軍縮特別総会や核兵器不拡散条約再検討会議への派遣などにも積極的に取り組みました。1986年に原水爆禁止運動は再び分裂し統一世界大会が開かれなくなり、生協は“にじのひろば”“少年少女ヒロシマの旅”など独自の生協企画・運動が展開されていきました。

2016年からはヒバクシャ国際署名に取り組みました。2017年には国連で核兵器禁止条約が成立しました。しかし日本政府は、現在も批准もオブザーバ参加もしていません。

会場の様子

齋藤さんは、生協の平和活動の特徴として、①母親の立場で、子どもとともに　②被爆者援護と被爆者とともに　③国連への派遣やユニセフの取り組みなど国際的視野で幅広い活動、の3点を強調されました。

その後、最近の平和をめぐる情勢について、「ウクライナ戦争とウクライナの生協」「最近の日本の政府の戦争する国に向けての動き」について話されました。

講演の最後に、「ウクライナの協同組合が言っているようにとにかく冷静になって国を守ることを考えることを協同組合の中で話し合っていくことが大切だ」述べられました。

参加者の感想

○年表を追いながらとても分かりやすくお話しいただき、ありがとうございました。生協の平和の取組のきっかけが原水爆禁止運動であること、活動の担い手が婦人組合員、お母さんたちであったことが知れました。まさに生協活動の原点がここであることがよく分かりました。

○「賢者は歴史から学ぶ」という言葉があるように、生協活動を歴史から振り返っていただきよく理解できました。今あるのも先人達の苦労があってこそだと感じています。ただ、昨今の日本を考えると憂いしかありませんが・・

○生協の歴史についてはロッチデールからの歴史、日本においては賀川 豊彦先生のカリスマ性などを学ぶのですが、平和を希求し反戦・反核に至る歴史が杉並区の主婦からこの大きなうねりになったことなど、生活協同組合の在り様、存在の大きさなどを感じた次第です。日本は明治維新の時代から庶民は何も聞かされず突き進んで行く歴史がありますが、今この時代には老若男女を問わず「?」をもって何が良いのか？を考えることが重要なことと実感しています。

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会総会の活動交流で奈良の生協の取り組みを報告しました

5月25日に、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の第12回通常総会が開催され、総会後の活動交流で奈良県生協連奥西専務が、奈良県における生協の継承する活動について、報告しました。
①手記集「奈良県のヒバクシャの声」の県教育委員会の協力による全小学校教員への配布ができたこと
②国連原爆展の開催と県教育委員会の協力による学校への案内と多数の児童や教員の来場があったこと
③原爆展参加者の感想もたくさん寄せられたこと
④大学生協の学生委員による平和について考える“Peace Now！奈良”の活動についても報告し、これらの取り組みを今年の日本生協連総会で報告し、全国の生協に向けて発信することを伝えました。

原爆展参加者の感想

●「げんばくは関係ない人の命もうばってしまうので、もうげんばくはおとさないでほしい（小学生）」

●私は、小学校教諭をしています。自分が平和学習を子どもたちに教えるときに、どうしていいか、どう子どもたちに何を伝えればいいか、いつも困ってしまいます。今、生きる大人として子どもたちに何ができるか、自分が今日感じたこと見たことを少しでも伝えることができるといいなと思いました。戦争という経験はしていませんが、命の大切さを子どもたちと考えたり、戦争のおそろしさを考えることはできるかなと思いました（30代）

●国連でこれだけの展示がされたのは、意義深いことだが、世界にはまだ多くの核兵器が残っていて、抑止力として必要だと思われている。プーチンがおどしの道具に使っている。核廃絶こそが人類が生き残る唯一の道だと思われた。（60代）

その他に、次のような各地からの報告がありました。

① 来年春に会の活動を休止するが、被爆者の抱えてきた課題はたくさんあるので、今後は被爆者と2世と非被爆者で「被爆者連絡センター」として被爆者の活動を受け継いでいく。（北海道）
② 被爆者がいなくなったらどう活動するか。「被爆者の願いを継承する県民の会」を結成した。元教育長、生協理事長、被爆者の会会長、元図書館長が代表を務めている。（岐阜県）
③ 長野県被爆者の会を訪問した。「会をいつ閉じようかと考えている」との話もあるので、貴重な資料がなくならないよう、継承できるようにと、奈良の平和ライブラリーの事例を伝えた（日本被団協工藤さん）
④ 昭和女子大学「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト―被団協関連文書」で、学園祭（2023年11月）にて、企画展「被爆者たちが望む未来／あなたが望む未来 ―「原爆被害者の基本要求」を読み解く―」を開催しました。（昭和女子大）

2024年度 第1回 生協・行政協議会

2024年度　第1回　生協・行政協議会を5月16日プロム近鉄奈良駅前にて開催し、奈良県地域創造部 県民くらし課藤本和巖課長、澤田真樹主査、保田万理主査および奈良県生協連から森宏之会長はじめ15名が参加しました。

森会長から、なら消費者ねっとが適格消費者団体の認定を受けて知事との面談、市町村訪問では26市町村が終了したことや、ならコープの包括協定の締結状況、こども食堂等の関わり、買い物支援、無料診療の状況について報告、また大学生協は食堂の経営など苦しい中生協間の連携をはかる旨のご挨拶がありました。

藤本課長から、県庁の部課再編と担当課の役割について、交通安全や防犯対策、地域コミュニティ、奈良県見守りネットワークおよび包括協定など地域の活性化につながる施策を奈良県生協連とも連携し取り組む旨のご挨拶がありました。

澤田主査から「県民くらし課の体制と主な所掌の詳細と特徴」について報告、奈良県生協連 奥西専務理事から「2024年度の奈良県生協連活動方針」について報告がありました。その後に意見交換し、消費者保護・啓発の観点、消費生活審議会への関心づくり、能登半島地震の支援（飲料水お届け・募金・人員の派遣）、下北山村の通行止めの対応、コロナ禍後の大学生協の食堂利用減少と極めて厳しい経営状況、医療も外来が厳しいことを伝えました。

市町村訪問

三郷町、橿原市、御杖村、曾爾村、広陵町への訪問

三郷町長

橿原市長

御杖村長

曾爾村長

広陵町長

2024年度介護保険制度改定を機に、安心してくらし続けられる地域社会の実現にむけ、社会福祉法人協同福祉会や会員生協と連携し、昨年8月から39全市町村の首長訪問をすすめています。

4月以降、5月2日三郷町木谷慎一郎町長、5月14日橿原市亀田忠彦市長、御杖村伊藤収宣村長、曾爾村芝田秀数村長、5月27日広陵町山村吉由町長を、奈良県生協連森会長・奥西専務理事、ならコープ福西専務理事・宮高常務理事と役職員、協同福祉会大國理事長・東浦専務理事とで訪問しました。

買い物支援の状況、一人暮らしの課題、介護とフレイル認知症の増加、移動手段の要望、女性活躍の環境整備、保育園事業、特産品の販路拡大、観光促進の取り組み、町営住宅の再整備など、共通の課題と自治体によっては固有の課題があり連携・協力できることから取り組みます。防災・避難所の電源確保や太陽光パネルやひと部屋断熱についても関心が寄せられました。

“Peace Now! 奈良 2024”が開催されました

2024年6月23日10：00～18：00　奈良教育大学の教室とキャンパスを会場に開催され、奈良県生協連は活動を支援しました。「Peace　Now！奈良2024」のテーマは、未来を広げる第一歩～自分で平和を見つけよう～として、積極的に学び、考え、発信することで、「自分で平和を見つける」こととして取り組まれました。過去、現在、未来の平和のつながりを探し、それを拡げることをめざし、積極的に「知り」、戦争の歴史や現在起こっている問題への関心を「深め」、一人一人が身近なテーマとして「考え」が深められました。今年で9年目を迎え、学生委員による自主・自発の取り組みが継承され、創意工夫を凝らした活動となっています。

実行委員含む大学生24名と先生方・大学生協専務と事業連合・事務局等の9名の合計33名が参加しました。今年は大阪府生協連の大学生協、ならコープ活動推進委員さんも参加されました。

当日のプログラムは、「アイスブレイク」「ぴーなら図書館」「フィールドワーク」「アウトプット」とし、参加者・実行委員にとって一体感・充実感のある一日となりました。実行委員は、役割分担を決め、資料を用意、当日の運営、参加募集、それぞれ役割の進捗状況の共有をはかり取り組まれました。資料は、多くの文献や情報を収集し自分たちで考え、「ぴーならのしおり」に取りまとめられました。

◆「ぴーなら図書館」…平和×○○というテーマで作成した記事をもとに知識を得る。①一つの記事を読んで知識を増やす。②同じ記事を読んだ人同士での意見交流。③違う記事を読んだ人同士で交流。

◆「フィールドワーク」…奈良教育大学にある８つの戦跡を訪れ、過去の戦争の歴史を知る。戦跡、①「吉備塚」「糧秣庫」、②「酒保（軍隊の駐屯地内に設けられた日用品・嗜好品を提供した売店）」「野仏集場」、③「営庭」「弾薬庫」、④「法務局」「聯隊碑」の４つのコーナーにわけ、グループごとに回り実行委員が分担して各戦跡の前で説明しました。

◆「アウトプット」…学んだこと、感じたことを過去・現在という視点から整理し、それを踏まえたうえで、今後どのような未来を目指していくかにつなげる。過去・現在・未来という視点からアイディアをそれぞれ色の違う付箋に書き出し、一本の木を創る。総括として未来をめざすスローガンを考える。

参加者アンケート一部抜粋

「ぴーなら図書館」

ジグソー学習の形式が効率もよく、新たな発見もあり、すごく良いと思いました！

自分の知らなかった知識や過去の出来事、戦争についての現代の取り組みを知ることができたのがよかったです。

自分で読んで考えるよりも他人の考えを聞いてみて発見できることがあった！

興味深い内容を簡潔にまとめて頂いているのでとても読みやすく、頭に入ってきやすい内容だった。

平和が様々なことと関連しているのが分かって、とてもいい勉強になりました。

「フィールドワーク」

な身近なところに戦跡があることすら知らなかった。

地元から少しずつこういった戦跡がないか調べて見たいと思った。

「アウトプット」

木を作るのは視覚的に達成感が味わえるのでとてもいいなと思いました！

自分には無かった視点を得ることができて、とても新鮮でした。こうした意見の交流が大切だなと感じました

自分の考えを出すというのが知識を取り入れるだけではなく、アウトプットによってたくさんの色々な人の意見を学ぶことができた

1番内容が濃かったと思う。吉川先生もおっしゃっていたように一つ一つ価値のある意見ばかりでこれを自大学にもぜひ持って帰って話をしたい。

2023年度 生協組合員理事交流会

「なぜ生協が平和活動に取り組むのか」について学び合いました

お話しする仲宗根迪子さんと新田和夫さん

3月19日奈良県橿原文化会館の会議室で、奈良県生協連主催の生協組合員理事交流会を開催しました。ウクライナ侵攻などの世界の動きの中で、「なぜ生協が平和活動に取り組むのか」について実行委員の皆さんで発案され、考える機会を持つことになりました。4つの生協の組合員理事41名と講師、事務局スタッフ6名合計47名が参加しました。

奈良県での生協活動の先輩で奈良県医療福祉生協特別顧問の仲宗根迪子さんと、奈良県での平和活動の支援をしてこられた奈良県生協連事務局の新田和夫さんから、奈良県での平和活動についての歴史や想いなどのお話がありました。

その後、9グループに分かれてワークショップを実施。

①自己紹介と「くらしを脅かすもの」について

②「私にとって平和とは?」「自分に何かできるか?」について話し合いました。

参加者の感想

「身近なところでの平和について自分で何ができるかを話し合い、気持ちの共有ができ、声を上げることで動くようにしたい」

「予想以上に政治の重要性が平和には欠かせないという意見が多かったのも、普段生活している中ではなかなか聞けない話なので嬉しかったです。」

自分にとって暮らしを脅かすものはなにか?平和ってなにか?自分は何ができるのかなどについて話し合うことで想いを共有し、みんなで話し合うということは大切だと実感しました。

グループにわかれて話し合い

各グループでどんな話が出されたのか
全体で共有しました

平和でなければ国民は暮らしていけません。生協法や協同組合についても再度振り返り、おかしいと思ったら声を上げなければいけないということを確認しました。

能登半島地震災害ボランティア
～奈良県社会福祉協議会ボランティアバス参加～

6月1日21：30～6月3日22：00奈良県社会福祉総合センター（橿原市大久保町）を発着にて、事務局として奈良県県民くらし課職員2人、県社会福祉協議会職員1人を含め19人が支援に参加しました。活動拠点は七尾市ボランティアセンターで支援先は七尾市の個人宅とお寺でした。

支援内容は、破損や浸水した家財や畳、ブロック塀などの運び出しでした。2階からの家財の運び出しは、1階の降りたところがガラス張りだったため特に慎重を要し、破損したブロック塀の運び出しは重労働でした。参加者は「少しでもお役に立てれば」と一生懸命で、良いチームワークによって対応できたと思います。

長年使ってこられた大事な家具を捨てきれない思いも共有しました。被災から5か月が過ぎ、「もう疲れた」とボソッと話されたことが印象的で、精神的にも追い込まれていることが伝わってきました。

2軒とも、作業中も涙を流され手を合わせ感謝されていました。とくに高齢者との会話が大切だと感じました。被災した方々のくらしぶりや震災の傷跡（心、建物・家財、地域分散）を考えると、まだまだ復興どころか復旧も進んでいない状況にあらためて継続した長くきめ細やかで寄り沿った支援が必要だと思いました。（奥西）

能登半島地震ボランティアワゴン

６月１日現地で被災者の支援を行っているNPO法人リベラの要請を受け、石川県輪島市町野町で行われた「炊き出し」に参加しました。炊き出しは、スーパーもとやさんとNPOリエラさんの協力で大阪府生協連が近畿や北陸の生協（連）に声をかけて1月から継続的な支援を実施してきました。地域でもこの活動が浸透しており、この日も整理券配布1時間ほど前からたくさんの方が集まって、仮設のテントの下で談笑されていました。昼夜2回の炊き出しは、昼はお弁当、夕方は焼きそばと焼き鳥を各400食用意しましたが、いずれもすぐなくなるほどの盛況ぶりでした。

倒壊したままの住宅、崩落した道路、転落した車が手付かずの状態を目の当たりにしました。「半年近くもたっているのに‥」と驚くと同時に、現地に住み続けておられるみなさんの心情を思うと胸が苦しくなりました。被災地での暮らしは、インフラの回復やこれから住む家、金銭的なことなどまだまだ不安はつきないのが現状です。ただこのような場所があること、このような場所を支え続けることで、お住まいのみなさんの笑顔や活力をとり戻すことにお役立ちできるのだと実感することができました。

炊き出し会場は被災されながら発災直後から休まず営業を続けておられる町野町唯一のスーパーもとやさん

今後も生協の仲間やNPO、社協や行政など連帯を深めていき、長く被災地やそこにお住まいの方々を支えていきたいと感じました。（三谷）

県連日誌

4月

1日(月) ピースアクションをすすめる会
2日(火) 県庁各部課・県森連・JAならけんへのあいさつ訪問
4日(木) 第5回関西地連・部会運営委員会、日本生協連地区別総会議案検討会議
10日(水) 近畿ろうきん提案エイブルアート協議開始
15日(月) 県湯山副知事訪問
16日(火) 鳥取生協・生協連交流
17日(水) 京都高齢者生協への調査訪問
18日(木) 河合町社協訪問
21日(日) 奈良こども食堂ネットワーク会員総会・交流会開催
22日(月) 桜井市松井市長懇談
25日(木) なら消費者ねっと理事会
29日(月) きょうされん奈良支部総会出席
30日(火) 奈良県　薬務・衛生課訪問

5月

1日(水) ピースアクションをすすめる会
2日(木) 三郷町木谷町長懇談
8日(水) 県福谷副知事懇談、期末監事監査
9日(木) Peace Now！奈良2024打合せ
10日(金) 奈良県社協震災支援協議訪問
14日(火) 橿原市亀田市長懇談、御杖村伊藤村長懇談、曽爾村芝田村長懇談
15日(水) Peace Now！奈良 実行委員会オブザーバー参加
16日(木) 2024年度第1回 非常用通信機器訓練、第1回行政協議会・奈良県生協連第7回理事会
16日(木) 奈良教育大学生協通常総代会
17日(金) JCA学習・IYC説明会、エイブルアート実行委員会、なら消費者ねっと理事会
21日(火) 協同組合デーつどい事務局協議
23日(木) 奈良県労済生協選挙管理委員会参加、憲法学習会実行委員会
奈良工業高等専門学校生協通常総会
24日(金) 奈良女子大学生協通常総代会
25日(土) もったいないNARA総会参加、ノーモアヒバクシャ記憶遺産を継承する会総会オンライン参加
27日(月) 広陵町山村町長懇談
28日(火) 奈良県立大学生協通常総会
29日(水) 奈良県生協連学習会
(齋藤 嘉璋氏)
31日(金) ピースアクションをすすめる会

6月

1日(土) 大阪府生協連炊き出し支援参加
2日(日)～3日(月) 奈良県社協ボランティアバス参加
6日(木) 奈良女子大学地域連携センター意見交換、関西消団連/関電・大阪ガス質問検討、関電・送配電懇談会
7日(金) エイブルアート実行委員会
8日(土) なら消費者ねっと通常総会・適格消費者団体認定記念シンポジウム
10日(月) 生活クラブ生協通常総代会
協同組合デーのつどい事務局会議
12日(水) ならコープ通常総代会
13日(木)～20日(木) JVOAD能登被災者支援コーディネーション
14日(金) 第74期日本生協連通常総会代議員出席
15日(土) 奈良県医療福祉生協通常総代会
18日(火) ならコープドライ棟竣工式来賓出席、エイブルアートならコープエリア会議
22日(土) コープ自然派奈良通常総代会
23日(日) Peace Now！奈良2024
27日(木) なら消費者ねっと理事会
29日(土) 奈良県生協連第35期通常総会、懇親会

予告 **ピースアクションinなら2024 講演：安田 菜津紀氏**（フォトジャーナリスト）

「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～」紛争地や被災地の取材で撮影した写真と共に、私たちに今何ができるのか、そしてどんな未来を選んでいきたいのかについてお話しいただきます。

リレー報告 Peace Now！奈良2024報告、ピースアクションをすすめる会、その他
日　時 2024年10月20日(日) 13:30～16:00　場　所 奈良公園バスターミナル・レクチャーホール
参加費 無料　主　催 ピースアクションをすすめる会、奈良県生活協同組合連合会

編集後記

能登半島地震の支援に参加させていただいた。ご高齢者から、地震の時の怖かったこと、長年使ってこられた大事な家具、ご近所のご高齢者の厳しいくらしぶりやお亡くなりになったお話、話を聞き受け止め寄り添うことが高齢者には最も大事なことだと感じた。（武）

県連総会が無事終了した。奈良県連は県連自体も小さく、「お互いの立場を尊重し、”仲良く”」が創立以来の伝統である。今年も多くの学生が参加し、他の会員生協の期待？も大きく交流がさらに深まったと感じた。（和）

「気候変動と災害」のテーマでお話しする機会を得て日本と奈良の災害状況を調べていました。地球温暖化により毎年のように豪雨災害が日本のどこかで発生し尊い命が犠牲になっています。災害対策を打ち被害が出ないことを祈ります。（順）

我が家の畑は今年から自然農?を目指して、敷き草マルチなるものを始めました。休みとなると、敷き草となる雑草を求めて鎌を片手にあちこちを徘徊しているので、雑草情報（イネ科が好ましい）があれば是非（豊）

今年の七夕祭りはとても暑い一日でした。娘が幼稚園のときには大きな笹飾りを作って楽しみました。暑い暑いと言ってないで星空でも眺める余裕を持ちたいですね。（佳）

奈良県生活協同組合連合会　〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2
TEL 0742-34-3535　FAX 0742-34-0043
URL https://www.narakenren.coop/